

シンポジウム

“大規模災害の保健医療支援における歯科の役割”

プログラム

Program

2008年10月18日（土）午後1時20分から
東京医科歯科大学医歯学総合研究棟（I期棟） 講義室1

主催

厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究推進事業）
「大規模災害時における歯科保健医療の健康危機管理体制の構築に関する研究」研究班

共催

財団法人 日本公衆衛生協会

ご案内

われわれは昨年度より、厚生労働科学研究費補助金（地域健康危機管理研究事業）「大規模災害時における歯科保健医療の健康危機管理体制の構築に関する研究（H19-健危-若手-001）」を担当させていただいており、おかげさまで今年度も継続課題としていただきました。

これまで歯科における各部門の基礎情報を収集してまいりましたが、今後は得られた情報を各部門が連携をとれる形でまとめ、そして、歯科が医療・保健など関連する各分野と連携して動ける歯科保健医療の健康危機管理体制の構築を目指す必要があると考えております。

これにあたり、構築していくべき歯科保健医療体制がどのようなものであれば、他の医療・保健を含む支援活動とうまく連動し、そして協力し合いながら地域住民のために生かされるものでありえるのかを、過去の医療支援、歯科医療支援の現場の立場から、そして、行政の立場から提言をいただき、方向性を検討するためのシンポジウムを計画いたしました。

まずは、山形県立救命救急センター診療部部長の森野一真先生に、「災害時の医療支援における他分野との連携～四川大地震における医療支援活動の経験から～」と題して外部から救援に入った場合の現地の医療者との連携についてなどの体験をお伺いしたいと思います。そして、日本歯科大学新潟生命歯学部 口腔外科医長・准教授の田中彰先生からは、「災害時の歯科保健支援における他分野との連携～新潟における2つの大震災における医療支援活動の経験から」と題して、2度経験された歯科保健支援においてどのような他業種との連携が重要だったかなどの体験をお聞きしたいと思います。さらに、東京医科歯科大学大学院医療政策学講座政策科学分野教授の河原和夫先生には、「地域防災計画・災害時支援体制における歯科保健支援の位置づけ」と題して、医療という視点より大きな枠組みから、歯科保健支援がどのような位置づけであるべきかをお教え願いたいと考えています。

そのうえで、「大規模災害時における保健医療支援における歯科の役割」に関して、東京都多摩立川保健所副参事（歯科保健）の矢澤正人先生の進行のもとで討論し、今後の方向性を見出したいと考えています。

お忙しいお時間をお集まりいただいた皆様との情報・意見交換の場として、意義深きものとなればと考えております。

2008年10月

中久木康一

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科・顎顔面外科学

k-nakakuki.mfs@tmd.ac.jp

TEL 03-5803-5502(研究室)、5738 (外来) FAX 03-5803-5500

プログラム Program

【開会挨拶】 13:20～

東京医科歯科大学顎顔面外科

中久木 康一

【基調講演】 13:30～

災害時の医療支援における他分野との連携

～ 四川大地震における医療支援活動の経験から ～

山形県立救命救急センター 診療部 部長

森野 一真

災害時の歯科保健支援における他分野との連携

～ 新潟における2つの大震災における医療支援活動の経験から ～

日本歯科大学 新潟生命歯学部 口腔外科 医長・准教授

田中 彰

地域防災計画・災害時支援体制における歯科保健支援の位置づけ

東京医科歯科大学大学院 医療政策学講座 政策科学分野 教授 河原 和夫

【討論】 15:15～

司会 東京都多摩立川保健所副参事（歯科保健）

矢澤 正人

大規模災害時における保健医療支援における歯科の役割

矢澤正人先生 略 歴

【学歴】 昭和53年3月 東京医科歯科大学歯学部卒業

昭和57年3月 同大学予防歯科学大学院修了

【職歴】 昭和57年4月 東京都杉並区南保健所勤務（以後、杉並区内の保健所、区役所勤務）

平成元年 厚生省成人歯科保健対策検討会委員

平成3年 東京都歯科医師会公衆衛生常任委員会委員

平成4年 厚生省老人保健福祉局歯周疾患予防モデル事業連絡調整委員会委員

平成5年 日本歯科医師会生涯研修セミナー講師

日本口腔衛生学会幹事

平成6年4月 東京都杉並区保健衛生部副参事

平成12年4月 東京都衛生局医療政策課・多摩小平保健所副参事（歯科保健担当）

平成17年4月 東京都福祉保健局多摩立川保健所副参事（歯科保健担当）

【その他】 東京医科歯科大学非常勤講師

【著書】 老人保健法の歯の健康教育・健康相談の担当者となったら 共著 日本歯科評論

初めての歯科口腔介護 共著 医歯薬出版 他

基調講演 1

災害時の医療支援における他分野との連携 ～ 四川大地震における医療支援活動の経験から ～

山形県立救命救急センター 診療部 部長
森野 一真

平成 20 年 5 月 12 日に中国四川省で発生した大地震に対し、我が国の国際緊急援助隊医療チームの一員として 5 月 20 日より 14 日間の医療支援活動を経験した。派遣された医療チームは医師 4 名、看護師 7 名、薬剤師 1 名、救急救命士 1 名、放射線技士 2 名、検査技師 1 名に事務調整を含めた計 23 名という構成であった。

大震災を代表とする大きな災害においてライフラインの破綻と医療資源を圧倒的に上回る負傷者の集中が招く医療機関における医療対応能力の低下は我々の予想をはるかに超えるものである。また、災害発生からの時間経過によっても医療需要や医療対応能力は変化する。災害時における医療支援の原則は被災地が医療支援を行う側に何を求めているかを災害発生とともに可及的速やかに把握し、その需要にみあう過不足のない医療支援を行う事にある。

国外における医療支援では上記に加え、被災国における法律、保険制度、医療体制、生活水準、言語、慣習・文化、薬剤や医療資機材の調達などに関する事前調査と調整が不可欠となる。しかしながら被災直後の混乱にあってはこれらの調整は困難となり、今回の医療支援においては現地での調整を余儀なくされ、十分なものとはいえなかった。

我々の医療支援活動の場は大学病院であった。各分野における専門性が明確で、支援側も専門性が求められたが、病院側との連携のためには変化する医療需要に合わせた対応も必要となった。今回の支援は我が国としても初めての経験であり、平時よりアジアをはじめとする各国のネットワークや人事交流による相互理解が不可欠であると考えられた。

略 歴

【学歴】 昭和60年 3月 山形大学医学部卒業
平成7年 3月 医学博士号取得（山形大学）

【職歴】 昭和60年 5月 山形大学医学部 第一外科
昭和61年 5月 山形県立新庄病院 外科
昭和62年 10月 山形大学医学部附属病院
第一外科
昭和63年 10月 城南総合病院 外科
昭和64年 10月 東海記念病院 外科
平成3年 6月 山形大学医学部 第一外科
平成7年 10月 山形市立病院済生館 外科
平成9年 6月 山形県立中央病院形成外科
平成12年 4月 山形県立救命救急センター
救急科

【資格等】 日本救急医学会専門医、日本外科学会認定医、
日本消化器外科学会認定医

日本熱傷学会認定医、JATEC・JPTEC・ITLS・
ICLS・DMAT講師

山形大学医学部救急医学臨床教授

【学会活動等】 外傷初期診療ガイドライン（JATEC）

カリキュラム委員

日本救急医学会メディカルコントロール体制
検討委員

日本集団災害医学会評議員

日本熱傷学会災害ネットワーク検討委員

平成20年度厚生労働科学研究費補助金 健康
危機・大規模災害に対する初動期医療体制の
あり方に関する研究（主任研究者：独立行政法人
国立病院機構災害医療センター院長 辺見弘）
分担研究者

総務省消防庁救急業務高度化検討委員会メ
ディカルコントロール作業部会委員

基調講演 2

災害時の歯科保健支援における他分野との連携 ～ 新潟における2つの大震災における医療支援活動の経験から ～

日本歯科大学 新潟生命歯学部 口腔外科 医長・准教授

田中 彰

新潟県は約3年の間に中越地震と中越沖地震という2つの未曾有の災害に遭遇した。日本歯科大学新潟生命歯学部は、歯科医育機関、地域歯科医療支援病院として、新潟県歯科医師会ならびに被災地郡市歯科医師会、行政と協力し被災地での歯科医療支援活動に従事した。中越地震の支援活動は、阪神淡路大震災における支援活動の記録と各方面からの貴重な助言をもとに、被災地の歯科医療需要を探りながらの活動であったが、その後活動内容を十分検証し、マニュアル改編などを行ったところに中越沖地震が発生した。まさに、中越地震の教訓を検証する場になったのである。

災害時に被災地で必要とされる歯科医療支援活動は、短期的に展開される被災住民に対する応急歯科診療と避難所を巡回する口腔ケア、口腔衛生指導、さらに中長期的な被災地における歯科保健活動、歯科検死活動があげられる。中越ならびに中越沖地震の被災地では歯科医療救護所を開設し応急歯科診療を行うとともに、避難所を巡回し歯ブラシ等の支援物資を配布しながら、被災者に口腔ケアや口腔衛生の重要性を呼びかける啓発活動を行い、必要な高齢者や幼児、学童には口腔ケアを行った。避難所生活では、慣れない避難生活のストレスや食生活から免疫機能が低下し様々な感染症や慢性疾患の増悪が危惧されるほか、要援護・要介護者では生活不活発病や誤嚥性肺炎のリスクが増加するため、歯科の介入は必須である。しかし、実際の需要は災害の規模、歯科診療所を含む被害状況、発災地域、時間などによって異なるため、活動の初動体制としては支援需要の分析が最優先事項となり、被災地災害対策本部から日々発信される避難所や被災者に関する情報入手が必要である。

このような状況の中で、被災地内での支援活動を歯科単独で組織的に展開するのは困難で、効果的な実施に際しては災害関係各方面との連携が欠かせない。それには、平時から関係者間での歯科保健活動に関する共通認識と情報収集を含む組織体制作りが必須であり、なかでも地域歯科保健活動の経験と実績が重要である。地域における医科歯科連携を充実させ、他領域の医療関係者に、歯科保健の重要性を広く認知してもらえらる環境づくりが急務といえよう。中越地震の際に、中長期的に行われた新潟県健康サポート事業において、栄養食生活支援などと並んで高齢者、要介護者の口腔ケアが行われた実績が、中越沖地震における巡回口腔ケア活動の充実につながった。「災害歯科医療は平時の地域歯科保健活動の鏡である」といっても過言でない。災害医療に関わる行政関係者、医師、看護師、介護関係者、管理栄養士、リハビリ関係者等の相互理解と連携体制の構築により、さらに災害歯科医療支援活動を充実させることができると考える。

略 歴

- 【学歴】 平成2年3月 日本歯科大学新潟歯学部 卒業
- 平成6年3月 日本歯科大学大学院新潟歯学研究科 修了 博士(歯学)
- 【職歴】 平成7年8月 日本歯科大学新潟歯学部口腔外科学第2講座 助手
- 平成13年4月 日本歯科大学新潟歯学部附属病院 口腔外科 医長併任
- 平成14年4月 日本歯科大学新潟歯学部口腔外科学第2講座 講師
- 平成15年4月 日本歯科大学新潟歯学部附属病院 口腔外科 講師
- 平成17年4月 日本歯科大学新潟歯学部附属病院 口腔外科 助教授(現准教授)
- 平成18年4月 日本歯科大学新潟病院 地域歯科医療支援室 室長 併任
- 【その他】 平成16年10月 新潟県歯科医師会中越地震災害対策本部 歯科医療支援活動参加
- 平成19年7月 新潟県歯科医師会中越沖地震災害対策本部 特別顧問

シンポジウム

”大規模災害の保健医療支援における歯科の役割”

Date:

2008年10月18日 土曜日 13:20～16:00(13:00開場)

Place:

東京医科歯科大学 医歯学総合研究棟 (I期棟) 講義室1

開会挨拶 13:20

第1部【基調講演】 13:30

災害時の医療支援における他分野との連携

～ 四川大地震における医療支援活動の経験から ～

森野一真先生 (山形県立救命救急センター 診療部 部長)

災害時の歯科保健支援における他分野との連携

～ 新潟における2つの大震災における医療支援活動の経験から ～

田中彰先生 (日本歯科大学 新潟生命歯学部 口腔外科 医長・准教授)

地域防災計画・災害時支援体制における歯科保健支援の位置づけ

河原和夫先生 (東京医科歯科大学 大学院 医療政策学講座 政策科学分野 教授)

第2部【討論】 15:15

大規模災害時における保健医療支援における歯科の役割

司会: 矢澤正人先生 (東京都多摩立川保健所副参事 (歯科保健))

会場地図

※一旦敷地外に出て、本郷通り沿いを左へ進み、直接建物へ入ってください。当日は大学祭「お茶の水祭」が開催されています。



参加費無料・参加登録不要

厚生労働科学研究費補助金
(健康安全・危機管理対策総合
研究推進事業)による発表会

お問い合わせ

中久木康一

東京医科歯科大学・顎顔面外科

k-nakakuki.mfs@tmd.ac.jp

TEL 03-5803-5502(研究室)

5738(外来)

FAX 03-5803-5500

共催

財団法人日本公衆衛生協会